資料1

地域学校協働活動の取組状況について

地域と学校の協働が求められる背景

子どもたちが心豊かで健やかな成長を遂げるため、また現在の学校や家庭・地域社会が抱える課題等を解決していくため、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしつつ、社会総掛かりでの教育の実現が必要。

期待される効果

地　域
にとって

活動を通じた地域の大人同士のつながりや、多くの大人が子どもと関わる機会が増え、学校や子どもの様子を地域の方々に理解してもらうことができる。

子ども・保護者
にとって

多様な経験や知識・技術を持つ地域の大人とふれあう機会が増え、学校教育のみでは実現できない子どもの多様な学習・体験活動や、きめ細やかな教育が実現できる。

学　校
にとって

学校・家庭・地域の適切な役割分担により、教職員が子どもと向き合う時間の確保につながり、指導力の向上や教育活動に厚みを生むことが期待できる。

モデル事業のねらい

授業補助や学校環境整備など、各地域のボランティア組織や学校応援団などの団体や組織が行っている既存の学校支援活動をベースに、学校・家庭・地域が情報及び課題・目標・ビジョンを共有し、学校と地域全体で子どもたちの学びや成長を支える組織的・継続的な**「しくみづくり」**。

平成30年度の取り組み

- **美保南地区**及び**湖南地区**をモデル地区として**地域学校協働活動推進員**を配置し、各地区のコミュニティスクールの取り組みや学校支援ボランティア等の活動状況の実態把握やコーディネーターとしての活動の方向性について検討を行った。
- **統括的な地域学校協働活動推進員**を生涯学習・スポーツ課に配置し、学校・地区公民館訪問等により現在の取組状況の把握を行うとともに、学校運営協議会への参加を通じて、地域学校協働活動との連携について研究を行った。

取り組みを通じての成果と課題、推進員の声

- 地域のボランティアによる支援の現状を確認する中で、学校と各ボランティアが直接つながっていることが多く、ボランティア間の横のつながりの不足やメンバーの固定化・高齢化などの課題が見えてきた。
- 既存の学校支援は充実しているが、上記の課題解消に向け支援から連携・協働への転換を図るためには、**熟議**や**目標の共有**や本事業への理解をより深めるための取り組みが必要。
- 推進員が配置されることで、学校と地域（ボランティア）それぞれの思いを受け止めることができた。また、双方が言いにくいことも推進員を介することで伝えやすいといった事例があった。
- 推進員としての立場ができたことで、学校・地域双方の声を聞くことができるようになった一方、その声をどこにつなげばよいか迷う場面もあり、地域内でのしくみ作りが課題と感じた。**地域学校協働本部**の在り方について検討が必要。
- 学校と地域の意見が集まることで新たな取り組みのアイデアが動き出した。例として、学校への**コミュニティルームの設置**や**公民館事業の学校内での実施**などが検討されている。